

## →少年と少女の夢を育んだ「ヒゲオヤジ」と「高校野球」

2018. 8. 12(日) カルチャーウォーキング

関西文学散歩 第 536 回 参加報告

轟公園での昼食の後、「高校野球発祥の地記念公園」を訪れた。全国高等学校野球選手権大会の前身である第 1 回全国中等学校野球大会はこの地で始まったそう。折しも今年には第 100 回目を迎えるにあつて高校野球の歴史を顕彰する公園として再整備されたそうである。レンガ塀には、第一回大会始球式のレリーフ



高校野球発祥の地記念公園

がはめこまれており、メインエントランスに豊中グラウンドの門柱を再現、歴代の優勝、準優勝校名をプレートで表示してあった。その後、行基創建の豊中稲荷神社を経て、カトリック豊中教会を最後に訪れた。おそらく 35 度以上もあると思われる街中を歩き、時折り建物内で涼をとったものの疲れは相当であり、冷房の効いた集会室での信者の方々の冷たいお茶のお接待は本当にありがたかった。

カトリック豊中教会は北摂の拠点として昭和 14 年に建設され、木造和洋折衷の教会として極めて貴重な存在であり 2015 年に登録有形文化財として登録された。設計者はチェコ人建築家ヤン・ヨゼフ・スワガーで日本滞在中にカトリック山手教会、トラピスト修道院増築など多くの教会建築を手がけ、豊中教会は最後の作品となった。聖堂とそれに隣接するヨゼフ館は入母屋屋根・色瓦葺・真壁仕上げの平屋建て。聖堂内部は寺院建築でよく見られる三廊式平面、左右に丸柱、天井は格天井。祭壇上には聖母子画。

宮本神父様が力強い声で聖堂や敷地内の説明をして下さった。私が特に関心を持ったのは聖堂屋根上にある十字架と刎高欄(はねこうらん)を廻らした鐘塔である。福音の十字架の足元に七段の突起物がある。大きな恵みをもたらす「七つのそうりん(相輪)」と聞いた。見学後、集会室で再びお茶やコーヒーをいただきながら、信者で教会役員の島村さんから補足説明を聞いた。手塚治虫『スリル博士』に「セント・ユダ教会」が登場するが、カトリック豊中教会によく似ていると、手塚ファンが多く訪れるそう。こちらの司祭館には地下室があり「スリル博士」の表紙絵にはその地下に通じると見られる階段が描かれている。豊中に縁のある手塚氏がモデルとして使われたのではないかと予想されていた。



阪急曽根駅にて



カトリック豊中教会

手塚治虫著『ぼくはマンガ家』を読むと、子供のころからいろんなことに興味を持つユニークな性格だったようだ。科学大好き、昆虫大好き、映画や落語にものめりこんだようだ。長じて漫画を描く上で大いに役立ったことだろう。彼は医大生でありながら漫画家との二足のわらじをはきインターンと国家試験をこなし、開業免許を得ている。だが教授から「手塚君、君はこのまま医者をつづけても、ろくな医者にはなれん。世のためにならんから医者をあきらめて、漫画家になりたまえ。これは、君への忠告だ」と言われ母に相談したところ、「あんたのいいと思う道に進みなさい」と意見されたそうである。

賢明で冷静な母親がいればこそ、偉大な漫画家手塚治虫氏の作品が世に残り、私達を楽しませてくれているわけである。

<報告：田原由美子>